

39-32 有明海大浦沖における海底攪拌の効果

沿岸域環境科学教育研究センター

教授 滝川 清

〃

助教授 秋元和實

農林水産省九州農政局

吉武弘之

熊本市

渡辺 枢

有明海の諫早湾湾口部の 2 海域において海底を攪拌し、底質調査、水質調査および生物調査を実施し、攪拌の効果を追跡調査した。周辺海域の環境特性についても調査研究を行い、懸濁物質の集積・移動など海域環境についても総合的評価を行った。その結果、以下の結論が得られた。1 堆積物が砂質あるいは泥質であっても、攪拌効果は 3 ケ月間維持され、底生生物が増加した、2) 泥質堆積物における攪拌効果は、暴風時の波浪による攪拌に匹敵する、3) 2004 年 6 月～11 月の連続観測に基づくと、大浦沖には筑後川流域の降水後に懸濁物と植物プランクトンに富む低塩分水が流入し、これらが沈降すると短時間に海底が貧酸素状態になり、pH も低下する、4) 大浦沖に集積した泥粒子は潮汐流の影響で南東に移動し、その移動方向は表層堆積物の厚さの分布に一致する。

(海岸工学論文集 Vol.52 2005.11)